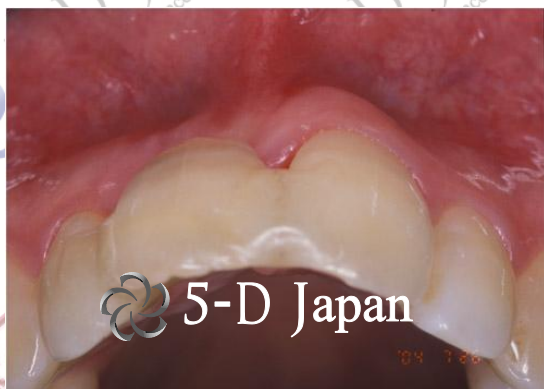


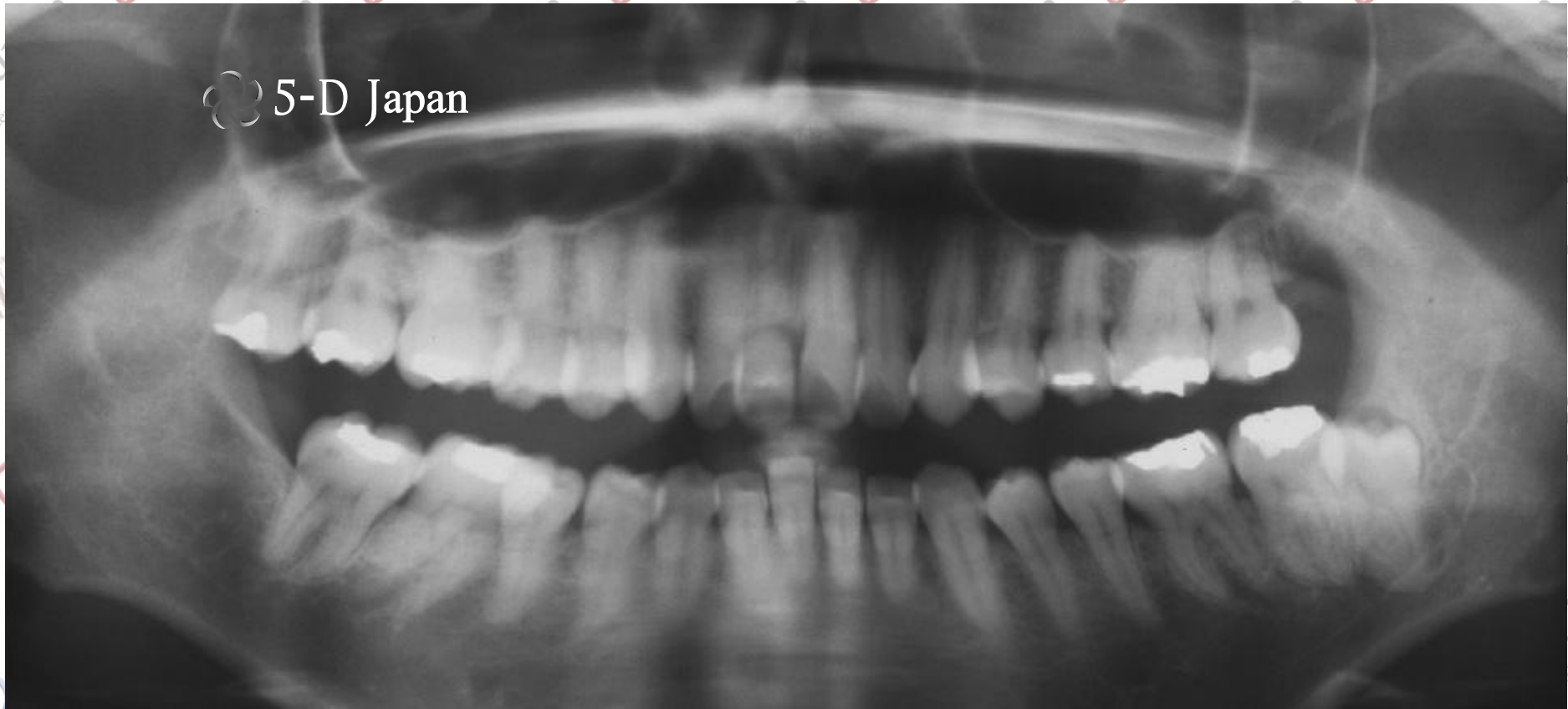
カテゴリー:インプラント

Key word :GBR,矯正,インプラント

アバットメントの着脱回数に配慮した前歯単独インプラント症例

5-D Japan : 北島 一
北島歯科医院(磐田市開業)





5-D Japan



初診日:2004年7月26日 性別:女性 年齢歳

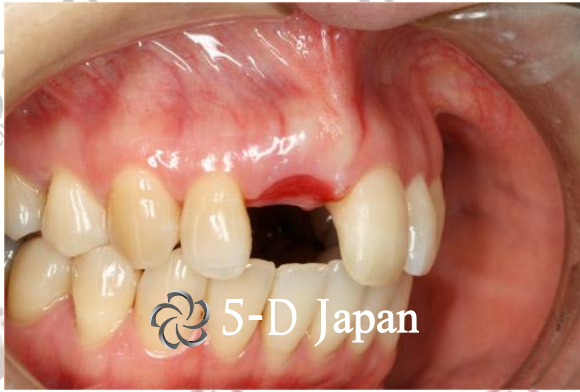
治療終了日:平成2009年12月4日

診断:上顎前突と右上中切歯欠損

治療方針:矯正により上顎前突の改善を行った後、右上中切歯部にインプラントによる欠損補綴を行う。

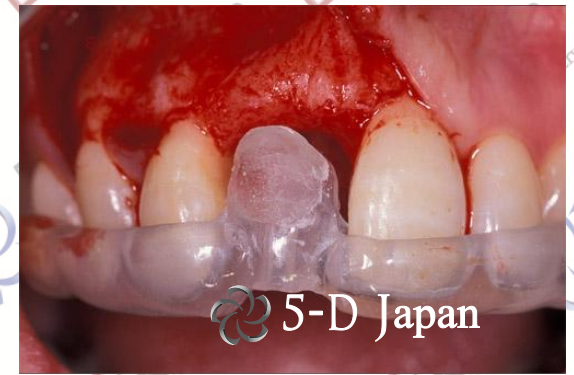
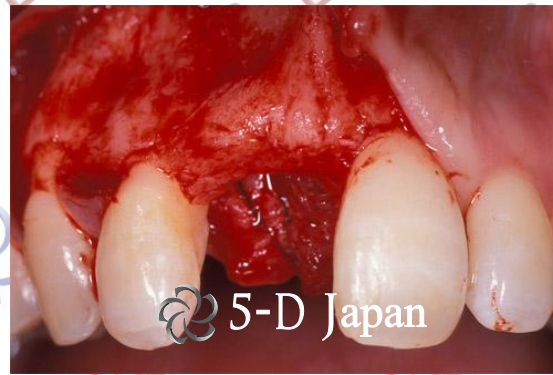
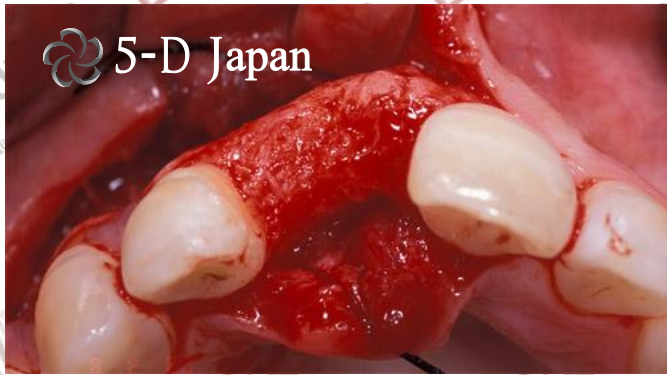
主訴:右上中切歯の欠損補綴

治療概要

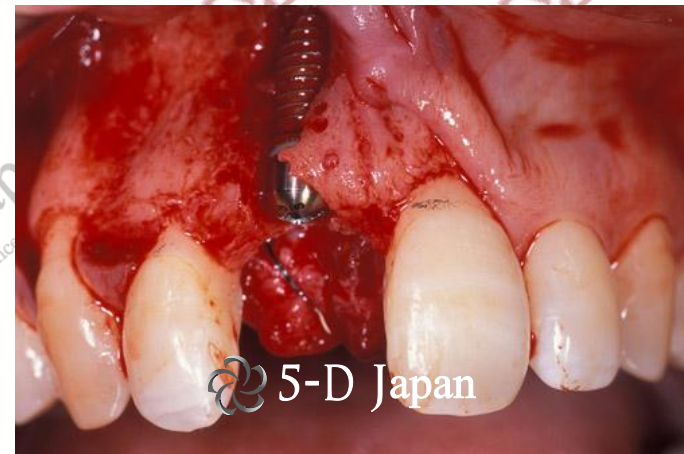
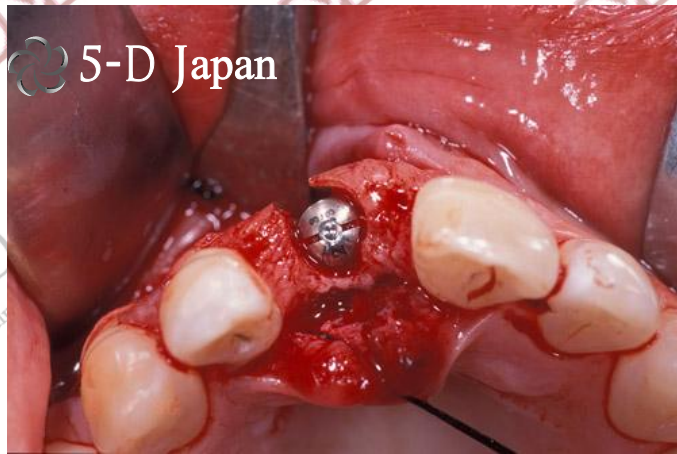


図説 矯正医(喜田賢司先生)による上顎前突改善後の状態とステント試適、歯槽骨の歯冠側は唇側のボリュームが保たれているが、根尖方向は陥凹している。

アバットメントの着脱回数に配慮した前歯単独インプラント症例

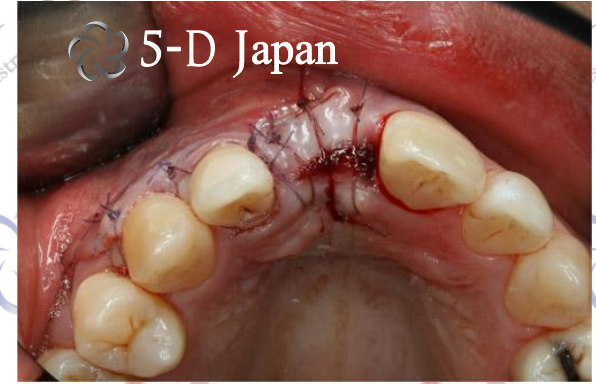
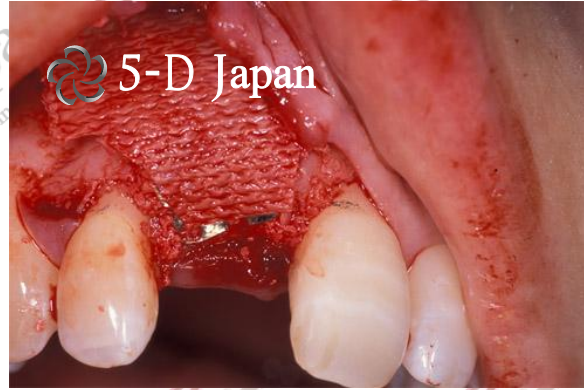
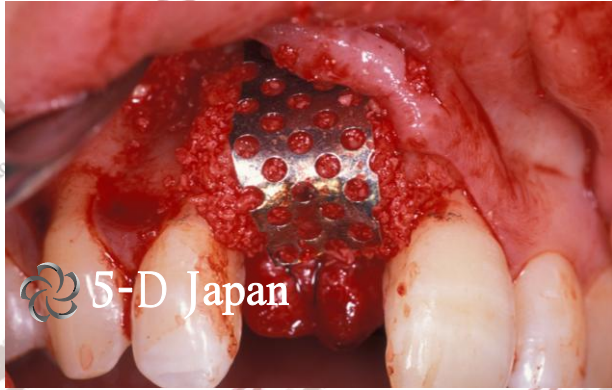


図説 歯槽頂部の骨幅は良好であるが、根尖方向では骨吸収が認められる。

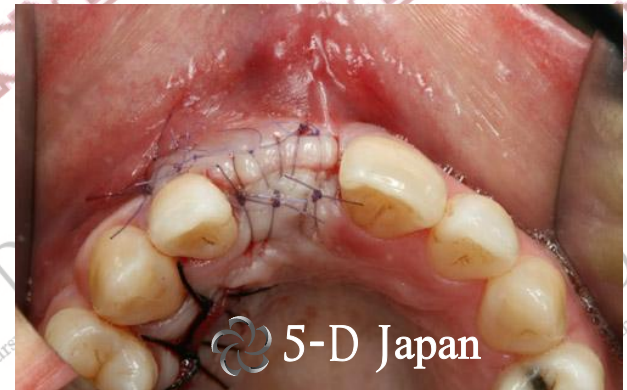
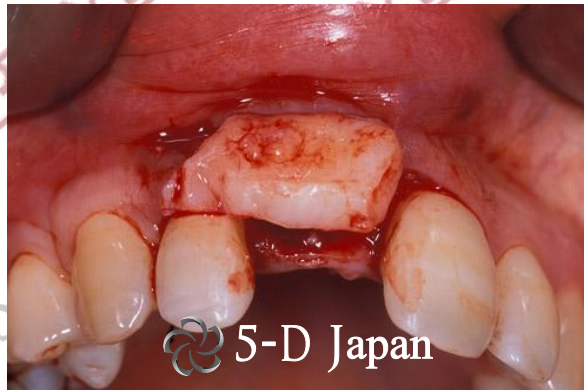


図説 印譜らとを埋入し2mmのヒーリングアバットメントを装着した。

アバットメントの着脱回数に配慮した前歯単独インプラント症例

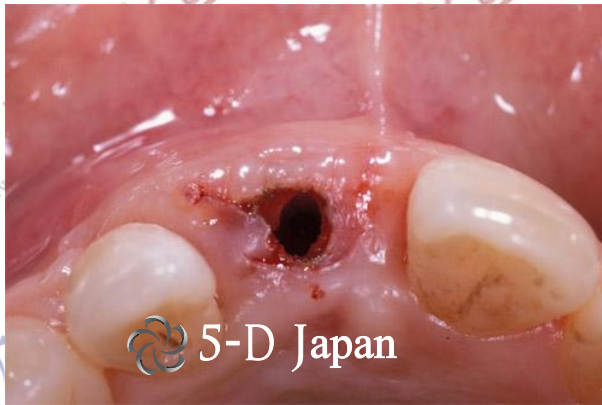


図説 骨移植、チタンメッシュ、吸収性膜(Ossix)によるGBRを行う。



図説 インプラント埋入8ヶ月後チタンメッシュ除去と同時にインデックスを採取し、結合組織移植を行った。結合組織は上皮を付け、インターポジショナルグラフトとした。

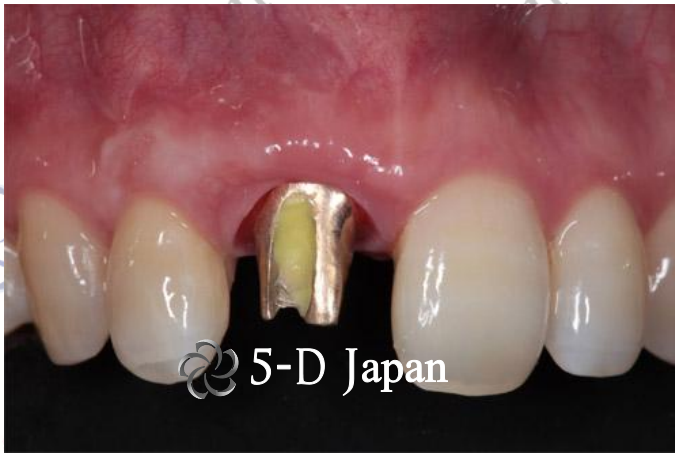
アバットメントの着脱回数に配慮した前歯単独インプラント症例



図説 結合組織移植後1ヶ月パンチアウトを行い、ファイナルアバットメントとプロビジョナルレストレーションを装着

アバットメントの着脱回数に配慮した前歯単独インプラント症例

最終補綴物装着時もしくは、動的治療終了時

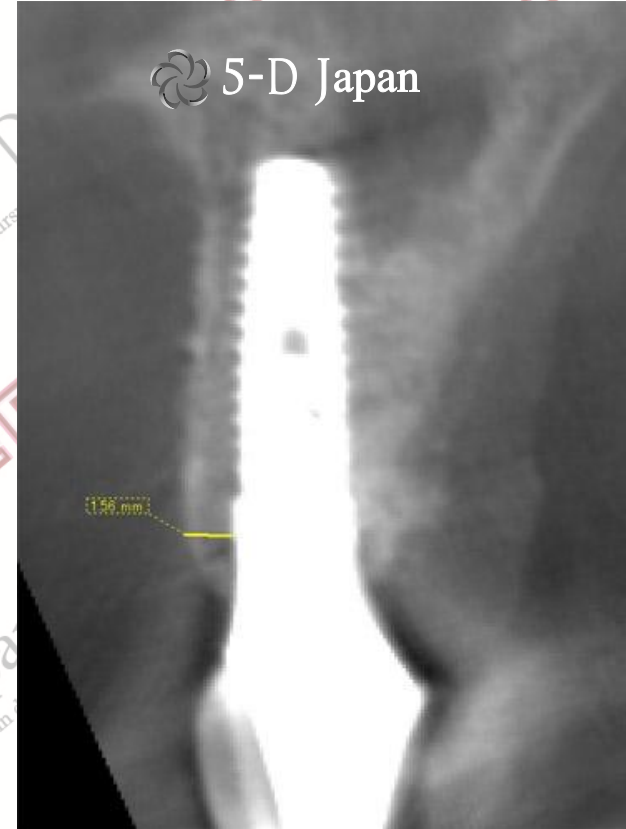
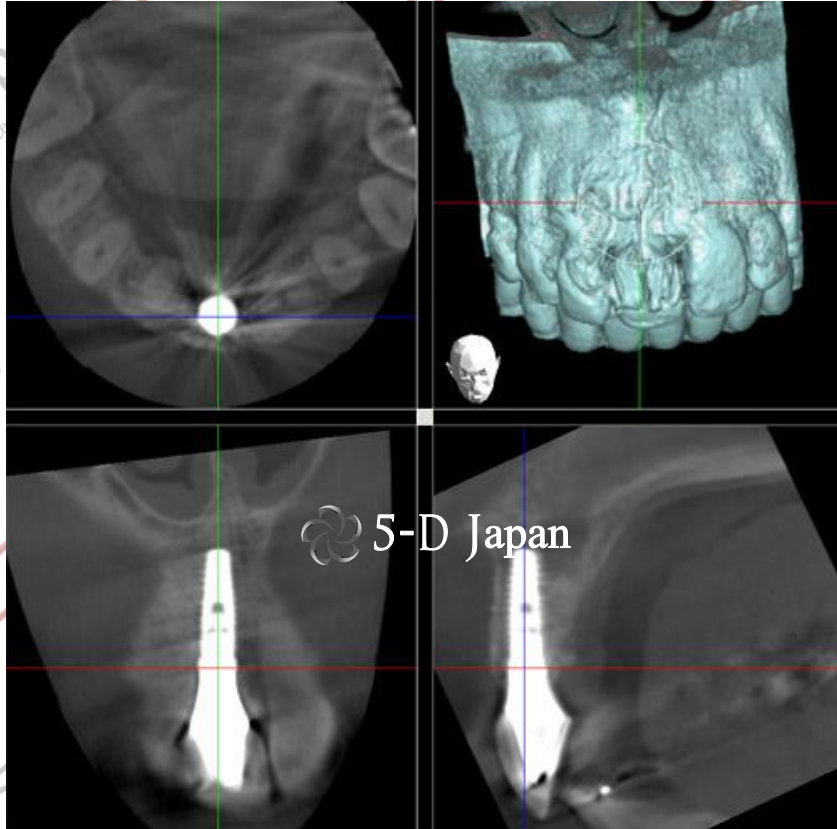


図説 唇側の組織のボリュームが増大されている。



図説 アバットメント装着後11ヶ月最終補綴物装着

画像・文書・情報について複製や無断転載・複製を一切禁じます。



術後CT画像;プラットフォームより歯冠側の骨がソーサイゼーションの影響を受けず保たれている。

まとめ:

やや唇側に位置してしまったインプラントであるが、GBRによって歯槽骨の増大を図り、アバットメントの着脱を避け、プラットフォームスイッチを応用することで唇側骨頂部の骨吸収を防ぐことをねらい良好な結果が得られたケースであるが、今後の経過を注意深く追っていきたい。